

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【音楽科】

1. 対象

中学校 第1学年1組（男子6名、女子12名 計18名）

クラスの雰囲気は明るく、何事にも一生懸命取り組むことのできる生徒が多い。授業や学級の話合いの場面では、個人が自分の意見を持ち、様々な見方で物事を考えることのできる集団である。また、歌を歌うことが好きな生徒が多く、音楽の授業や帰りの会の合唱時には歌い終わった後に自然と集まり、反省点や次回意識することを全員で確認できる雰囲気がある。

2. 単元（題材）名「歌詞と強弱の関わりを考えながら、言葉を大切に歌おう。」（全5時間）

3. 単元（題材）で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	「地球星歌～笑顔のために～」の歌詞の内容と強弱との関わりを理解している。「地球星歌～笑顔のために～」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけ、強弱の変化を歌唱で表している。
思考力、判断力、表現力等	強弱を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。
学びに向かう力、人間性等	合唱表現の多様さに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に合唱の学習活動に取り組もうとしている。

4. 本時の目標

「地球星歌～笑顔のために～」の基本的な部分を練習してきた生徒たちが、強弱の変化をつける活動を通して、「地球星歌～笑顔のために～」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけ、強弱の変化を歌唱で表すことができる。

5. 授業展開【本時】・単元（題材）】 ※本時または単元（題材）いずれかに○を付けてください。

解決したい課題や問い

- ・『地球星歌～笑顔のために～』に強弱の変化をつけてみよう。」
- 今日は、小節番号45からを繰り返し練習し、曲にふさわしい強弱をつけてみよう。まずは、パートで集まり、今日の授業でこだわって練習していくポイントを決めよう。

考えるための材料

- ・自分たちの歌っている合唱を録音、または動画撮影する。（タブレットを活用）
- ・以前、全体で合わせた時の録音と、模範演奏を用意し聴き比べに活用する。
- ・練習方法を一覧にした、合唱練習虎の巻をロイロノートで確認できるようにする。

想定される活動

- ・自分たちの合唱と模範演奏を比較することで、強弱の変化がついていないことを実感し、強弱をつける必要性を感じることができよう。
- ・練習中に繰り返し録音をすることで、成果と課題をすぐに確認できよう。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

「対話方法」

- ・単元を通して、ソプラノ、アルト、テノールの3パートに固定することにより、共通の課題をもち練習する環境をつくっていく。また、これまでの話し合い活動の積み重ねを大切に、誰もが対話活動に参加できる環境をつくっていく。
- ・視点を「強弱」だけに絞ることで、全員で意識していくことをぶれないようにする。
- ・ICTを活用することで、自分たちの合唱に強弱の変化がついているかを確認しながらパート練習を進められるようにする場を設定することで、意味のある対話活動を推奨していく。

「対話や思考のプロセス」 ○教師の働きかけ ・予想される生徒の反応 ※留意点

- 「『地球星歌～笑顔のために』の強弱が一番変化するのはどこだろう？」※模範演奏活用
 - ・「小節番号45からは、すべての強弱記号が使われているな。」
 - ・「小節番号45から、これまで見たことのないffやpiufが使われているな。」
 - ・「小節番号45から、いろいろな強弱記号が出てきているな。」
- 「なぜ、小節番号45から強弱の変化が激しくなるのだろう？」
 - ・「作曲者が一番伝えたいメッセージだから。」
 - ・「聴いている人にイメージを想像させたいから。」
 - ・「曲を盛り上げるため。」
- 「自分たちの合唱は、強弱の変化がついているだろうか？」※以前録音した合唱を活用
 - ・「全部フォルテで歌ってしまっているな。」
 - ・「クレシェンドの部分がだんだん大きく出来ていないな。」
 - ・「強弱の変化が感じられないな。」
- 「『地球星歌～笑顔のために～』に強弱の変化をつけてみよう。」※録音機器を活用
 - パートで集まり、今日の授業でこだわって練習するポイントを決めよう。
 - ・「『すべてを感じること』のクレシェンドができるよう意識して練習してみよう。」
 - ・「全部強く歌ってしまっているから、『この小さな手で』をやや小さく歌えるように練習してみよう。」
 - ・「『ふるさとと言おう』の部分をもっと大きく歌えるよう足上げで歌ってみよう。」

学習の成果（予想される子供のあらわれ）

- ・「強弱の変化を意識して練習して、クレシェンドはかなりできるようになった。」
- ・「まだff(フォルティッシモ)の部分が出来ていないから、次回意識したい。」
- ・「強弱の変化を意識して歌ったが、まだ出来ていない部分があるので、次頑張りたい。」